

認知症共同生活介護 認知症グループホームくつろぎ

1 基本方針

認知症になっても入居者一人ひとりが個人として尊重され、住み慣れた地域の中で築いてきた暮らしを大切にしながら、その人らしく生活できることを目指す。

2 今年度重点事業目標

(1) 専門的ケアの実施と個別支援

- ア 認知症の正しい理解、先進的な知識の習得や技術の向上に努め、根拠ある専門的視点にたった支援に取り組む。
- イ 入居者の思いやニーズに寄り添い、一人ひとりが残された能力を意欲的に活用し、役割や生き生きと生きる自信、生活の継続につながる支援に取り組む。
- ウ うれしさ、喜び、心地よさなど快の感情の表出に着目し、ポジティブな心理状態の継続を図り、生活の質の向上に向けアセスメント力を高める。
- エ 平常時の健康管理、重度化体制整備、通院や往診等、事業所とかかりつけ医、地域の医療機関との連携を図る。

(2) 職員の資質向上と人材育成

- ア ユマニチュードを基本としたコミュニケーション力の向上、傾聴、観察によるアセスメント力の向上、情報共有の重要性に着眼した記録力の向上、高齢者の重度化対応など内部研修（OJT）外部研修（OFF-JT）をとおして必要な知識や技術を習得する。
- イ 個々の研修計画や習熟度に沿った研修など幅広い受講形態を活用し、各種資格取得へのチャレンジや自己啓発を推進し人材育成を図る。

(3) 地域社会との連携と認知症理解への取り組み

- ア 2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、くつろぎの情報を発信、地域情報に接する。
- イ コロナ禍により静観している地域との交わりや関係作りの機会を、世情に合わせた感染対策を講じながら、身近な外出等から徐々に再開し、地域の一員として暮らせるよう、地域へ情報を発信し地域交流を図る。認知症カフェ等地域とのふれあい活動が開催された際には積極的に参加する。
- ウ くつろぎ便りの送付、タブレットや音声（電話）などの通信手段を活用し、家族との連携を密に信頼関係の構築に努める。
- エ 近隣の協力も得ながら災害時の対応が迅速に行えるよう、防災訓練や緊急時対応訓練を実施し、入居者の安全な生活を継続する。

(4) 経営基盤の確立

- ア 医療との連携を図りながら健康管理に努め、稼働率97%以上を目指す。
- イ あらゆる感染症予防対策の徹底、自然災害に対する対策を行うことで有事の際、被害を最小限に抑えるよう努める。

(5) 労働環境の整備

- ア 職員の体調管理や早期相談体制の整備に努め、風通しの良い職場、風土作りを目指す。
- イ 先進的なICT技術の導入等研究しリスクの軽減、職員の負担軽減を推進する。